

発掘された銅鏡

兵庫に伝わった鏡と文化

平成31年3月15日(金)～9月10日(火)



兵庫県立考古博物館 加西分館

古代鏡展示館

Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

銅鏡、日本へ伝わる

弥生時代中期(紀元前1～紀元1世紀)、当時の中国、前漢の積極的な対外政策は、海を越え北部九州に及ぶ。前漢と交流のあった北部九州の首長のもとに伝わった多くの文物の中に銅鏡があった。当時の倭国の人々にとって鏡は、本来の用途である姿見ではなく、前漢王朝の権威を帯びた宝器という特別な意味をもっていた。

弥生時代後期に入り、銅鏡は東へ伝播していく中で兵庫の地に達する。

ぼうせい
「仿製鏡」



小形仿製鏡 径 4.8 cm
表山遺跡(神戸市)出土
内区に六弧の花紋を配した銅鏡

「前漢鏡」



異体字銘帯鏡 径 17.7 cm
千石コレクション
県内で出土した唯一の前漢鏡(森北町遺跡・神戸市)
と同種の銅鏡

兵庫最古の銅鏡

弥生時代後期初頭(1世紀)、畿内の西端部に位置する^{おもてやま}表山遺跡から小形仿製鏡が出土している。「仿製鏡」とは中国鏡を模倣して日本で制作された鏡である。表山遺跡出土鏡は、弥生時代中期～後期(1～2世紀)に北部九州などで制作されたものの1面で、瀬戸内海ルートを経てもたらされたと推定される。入手時期が明らかな県内最古の銅鏡である。

県内の弥生時代後期～終末期(2～3世紀)の遺跡から出土する銅鏡の多くは、中国鏡を打ち割った「破鏡」^{はきよう}である。鏡を割る行為は、銅鏡を欲する階層の広がりに対し、より多く配布するためと考えられる。小さな鏡片には研磨したものや、紐を通すために^{せんこう}穿孔したものがあり、所有者の鏡に対する特別な想いを見ることができる。

出土鏡が語る歴史

『魏志』倭人伝には、景初三年(239年)に女王卑弥呼が魏へ遣使し、「銅鏡百枚」などが下賜されたことが記されている。魏の国との外交を裏付けるように魏の年号である「景初三年」やその翌年の「正始元年」銘の銅鏡が存在する。

一方、安倉高塚古墳(宝塚市)出土の対置式神獸鏡は呉の年号である赤烏七年(244年)の銘があり、文字資料に現れない呉の国との関係を物語る。

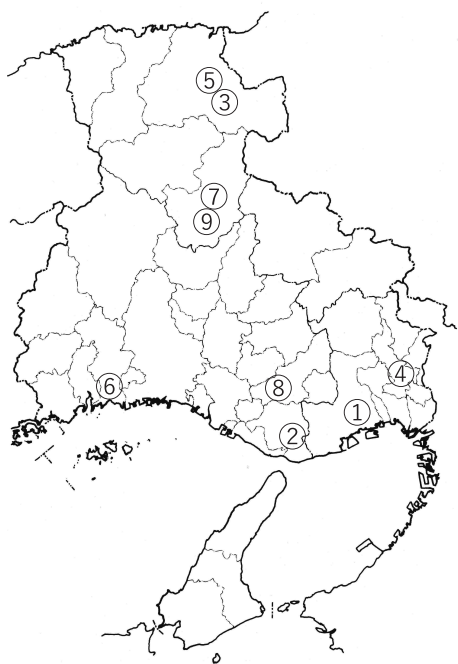
古墳時代前期(3世紀後半～4世紀)には、国内で銅鏡の制作が本格化する。その鏡の多くは中国鏡を模倣したものだが、紋様図像が退化していることなどから、中国の人々が本来銅鏡に込めた思想までは受容していなかったことがうかがえる。



赤烏七年対置式神獸鏡 径 17.2 cm
安倉高塚古墳(宝塚市)出土



四獸鏡 径 11.4 cm
年ノ神6号墳(三木市)出土



展示遺跡の位置

- ① 森北町遺跡(神戸市)
- ② 表山遺跡(神戸市)
- ③ 鳥居遺跡(豊岡市)
- ④ 安倉高塚古墳(宝塚市)
- ⑤ 森尾古墳(豊岡市)
- ⑥ 権現山51号墳(たつの市)
- ⑦ 向山2号墳(朝来市)
- ⑧ 年ノ神6号墳(三木市)
- ⑨ 薬師前経塚(朝来市)



破鏡
鳥居遺跡(豊岡市)出土
長さ 上:2.2 cm 下:4.1 cm

協力
朝来市教育委員会 神戸市教育委員会 たつの市教育委員会